



にぎわい東北

— つなげよう、ふるさとのチカラ



2017年11月22日

イオン株式会社

「イオン 未来共創プログラム」を通じてグループ7社が連携 南相馬市小高区「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」に参加します

11月25（土）から福島県南相馬市小高区でスタートする「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」にイオングループ7社（イオンマーケット(株)、イオンアイビス(株)、イオンディライト(株)、イオンフードサプライ(株)、(株)イオンファンタジー、イオンマーケティング(株)、マックスバリュ関東(株)）が参加します。

「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」は小高区で2002年に始まり、冬の町を明るく彩るイベントとして親しまれてきたものです。同区は東日本大震災により大きな被害を受け、さらに原発事故に伴う避難指示区域に指定されたことで住民の方々は避難生活を余儀なくされたものの、震災翌年から「仮設住宅イルミネーション」として取り組みを継続し、2015年には、小高区のマイン会場での点灯式も再開されました。2016年7月に避難指示が解除されたことを受け、参加者がさらに増えることが期待されています。

このたびのイオングループ7社によるイルミネーションへの参加は、「イオン 未来共創プログラム」における、グループ従業員と地域の方々の交流をきっかけに実現したものです。避難指示解除後の小高区のみちづくりについてともに考えるなか、“あかりの装飾を通して地域の絆や繋がりを深めるとともに、小高に活気を取り戻す一助とする”というイルミネーションの目的に賛同し、地元の方々とともに「イオン 心をつなぐプロジェクトチーム小高」として参加します。参加に係る費用は、従業員が自ら実施したチャリティ活動等によって確保し、JR常磐線小高駅前の中央広場にあるシンボルツリーを飾りつけ、小高を訪れる方々を温かな光でもてなします。

今回のイルミネーションに参加するきっかけとなった「イオン 未来共創プログラム」は、東日本大震災被災地の「地域（ふるさと）の創生」に向けた取り組みの一環として、グループ労使からなる「イオン 心をつなぐプロジェクト」※1が2016年5月に開始したものです。同プログラムは、被災地における社会的課題のひとつは「持続可能な地域共同体の再生」であるとの考えのもと、地域交流型の支援活動を通じて持続可能なコミュニティの再生を目指す取り組みです。現在、小高区を含む岩手・宮城・福島の3県の6地域※2で活動を行っており、グループ各社の従業員が地域の方々と交流し、地域の課題についてともに考え、その解決に向けて取り組んでいます。

今後もイオンは、地域の皆さまと手をたずさえ、持続可能な地域コミュニティの再生を目指し、東北の創生に向けてともに歩んでまいります。

※1 「イオン 心をつなぐプロジェクト」

労使一体となって被災地での植樹やボランティア活動に取り組む「イオン 心をつなぐプロジェクト」を震災から1年後の2012年3月に立ち上げ、2021年までの10年間にのべ30万人の従業員によるボランティア活動、東北沿岸部で合計30万本の植樹活動を実施することを掲げて取り組んでいます。

2017年10月末現在、24万8,771人の従業員がボランティア活動に参加し、25万7,309本の植樹を行っています。

※2 「イオン 未来共創プログラム」活動地域

岩手県：釜石市・大槌町、遠野市米通地区、
宮城県：気仙沼市大島、丸森町耕野地区
福島県：浪江町・二本松市、南相馬市小高区

■あかりのファンタジーイルミネーション in おだか

実施期間：2017年11月25（土）～2018年1月8日（月・祝）

点灯時間：17：00～20：00

場 所：福島県南相馬市小高区内各所

※「イオン 心をつなぐプロジェクト
チーム小高」によるイルミネーション
は、JR常磐線 小高駅前中央広場で
実施します。



【小高観光協会によるオープニングセレモニー（イベント全体の点灯式）】

日 時：2017年11月25（土）17：00～17：30

場 所：小高浮舟ふれあい広場（福島県南相馬市小高区本町1-43）

[昨年のイルミネーションの様子]



小高浮舟ふれあい広場



小高区役所

【「イオン 心をつなぐプロジェクト チーム小高」によるイルミネーション点灯式】

日 時：2017年11月25（土）17：45～18：30

場 所：JR常磐線 小高駅前中央広場（福島県南相馬市小高区東町1）

出席者：南相馬市 市長 桜井勝延 様

イオンマーケット株式会社 人事総務部長 渡邊正幸

「イオン 心をつなぐプロジェクト チーム小高」メンバー

スケジュール：17：45 開会 主催者挨拶

17：50 桜井勝延市長挨拶

17：55 参加企業紹介

18：00 点灯、小高産業技術高校ブラスバンド演奏会 等

18：30 閉会

ご参考

「イオン 心をつなぐプロジェクト」による「イオン 未来共創プログラム」各地域での主な活動内容

【岩手県釜石市・大槌町】

被災地での地域産業創出と就労支援をテーマに進め、大槌町にて農業でまちに活気を呼び戻そうとする方々と交流。クレソンを大槌町のブランドにしようという動きを受け、2018年は、クレソンの援農ボランティアと販売を計画している。また就労支援団体が地元産の塩を商品化したバジル塩について、(株)イオンイーハートがレストラン「四六時中」の店舗でお客さまに提供し、PRした。

【岩手県遠野市米通地区】

米通地区では、原子力災害による避難地域の福島県飯館村の特産品「雪っ娘かぼちゃ」を代理栽培しており、イオンスーパーセンター(株)が、同かぼちゃの収穫支援と販売を実施。また、(株)メガスポーツは、スノートレッキングを通じて遠野市の豊かな自然を多くの方々に体験していただく「アウトドアワールド遠野」実施に向け、フィールド検討会を現地の方々と開催。

【宮城県気仙沼市大島】

津波被害を受けた島の活性化につなげるため、柚子の商品化をめざしてグループ従業員が250本の植樹と育樹を実施。イオン少額短期保険サービス(株)では、地元産柚子ジャムを購入し、お客さまに島の産品をPRした。引き続き柚子の商品化の検討を進めている。

【宮城県丸森町耕野地区】

原子力災害による風評被害と産業再生支援として、耕野名産「ころ柿」の収穫と援農ボランティアを通し農家の方々との交流を実施。イオンスーパーセンター(株)は、小規模農家との産直取引を実施。また、今後新入社員研修の一環として、「ころ柿」の援農ボランティアを計画しており、さらに販売量増加に向け取り組む。

【福島県浪江町・二本松市】

2017年4月に避難指示解除となった浪江町の今後のにぎわいにつなげるための活動を進めている。京阪神地区で事業を行う(株)光洋は、避難を余儀なくされた方々の京都での交流会の支援や、浪江町の現状を知ってもらうための語り部の会の大阪での開催、従業員募金などを継続。11月25日には、震災後初めて浪江町で開催する「十日市祭り」にボランティアとして参加。

【福島県南相馬市小高区】

2016年7月に避難指示解除となった小高区ににぎわいを復活させたい思いから、「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」への参加に加え、グループ各社が活動を実施。イオンリテール(株)とミニストップ(株)は、2017年4月に再開校した小高産業技術高校発案の「ほっき飯お弁当プロジェクト」ワークショップを進めており、2018年1月中旬の販売予定している。また、イオン北海道(株)は、南相馬市の産品の道内での販売拡大に向けて取り組んでいる。